【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成21年9月24日(2009.9.24)

【公開番号】特開2008-42726(P2008-42726A)
【公開日】平成20年2月21日(2008.2.21)
【年通号数】公開・登録公報2008-007
【出願番号】特願2006-216884(P2006-216884)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/66　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　7/01　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　5/36　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　5/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/66　Ｄ
Ｈ０４Ｎ　7/01　Ｊ
Ｇ０９Ｇ　5/36　５２０Ｈ
Ｇ０９Ｇ　5/36　５２０Ｆ
Ｇ０９Ｇ　5/00　５１０Ｓ
Ｇ０９Ｇ　5/00　５２０Ｗ

【手続補正書】
【提出日】平成21年8月5日(2009.8.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
アスペクト比が１６：９より水平方向に長い表示部を備えた映像表示装置であって、
入力される映像を水平方向にＡ倍（Ａは１以上）で、かつ、垂直方向にＢ倍（Ｂは１以上）に伸張する映像変換回路と、
前記映像変換回路によって伸張した映像を表示する表示部とを備え、
前記映像変換回路の水平方向の伸張率Ａは垂直方向の伸張率Ｂよりも大きいことを特徴とする映像表示装置。
【請求項２】
前記表示部のアスペクト比が１０：３であることを特徴とする請求項１に記載の映像表示装置。
【請求項３】
前記水平方向にのみ伸張するモードを複数備えたことを特徴とする請求項１に記載の映像表示装置。
【請求項４】
前記映像変換回路の水平方向の伸張率Ａを、（前記表示部の水平方向の表示画素数）／（前記映像変換回路に入力される映像の水平方向の画素数）によって決定することを特徴とする請求項１に記載の映像表示装置。
【請求項５】
前記映像変換回路に入力される映像が、映像を含まない領域が存在するシネマスコープ映像であるとき、前記映像変換回路は垂直方向の伸張率Ｂを１倍よりも大きくすることを特徴とする請求項１に記載の映像表示装置。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の詳細な説明】
【発明の名称】映像表示装置
【技術分野】
【０００１】
本発明は、アスペクト比１６：９より水平方向に長い、例えばアスペクト比１０：３の画面に、アスペクト比４：３やアスペクト比１６：９の映像を、様々の画面モードにて表示する場合に用いて好適な映像表示装置に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来のアスペクト比１６：９の映像表示装置は、ＮＴＳＣ方式の映像信号などのアスペクト比４：３の映像を表示する際に、図１３に示すような画面モードを持ち表示を行う。
【０００３】
図１３（ａ）は、画面モードがノーマルとされた場合で、アスペクト比４：３のＮＴＳＣ方式の映像の垂直方向の長さと、ワイド画面の垂直方向の長さとを対応させ、映像表示装置の両サイドに表示させずに、アスペクト比４：３の映像が正確な真円率で表示されている様子を示している。また、図１３（ｂ）は、画面モードがワイドとされた場合で、アスペクト比４：３のＮＴＳＣ方式の映像の中心付近は正確な真円率で、映像表示装置の両サイドには水平方向に引き延ばされ、これによりアスペクト比４：３の映像が、アスペクト比１６：９の映像表示装置の画面にあわせて表示されている様子を示している。図１３（ｃ）は、画面モードがフルとされた場合で、アスペクト比４：３のＮＴＳＣ方式の映像の全体が横方向に引き延ばされ、これによりアスペクト比４：３の映像が、アスペクト比１６：９の映像表示装置にあわせて表示されている様子を示している。さらに、図１３（ｄ）は、画面モードがズームとされた場合で、アスペクト比４：３のＮＴＳＣ方式の映像の水平方の長さと、ワイド画面の水平方向の長さとを対応させ、これによりアスペクト比１６：９の映像表示装置の上下にはみ出す部分が表示されずに、アスペクト比４：３の映像が正確な真円率で表示されている様子を示している。
【０００４】
従来のアスペクト比１６：９の映像表示装置においては、例えば図１３に示した４つの画面モードのうち、いずれか所望するものを選択して、その選択した画面モードで、アスペクト比４：３のＮＴＳＣ方式の映像を表示することができるようになされている。
【０００５】
図１４に画面モードの遷移を示すが、図１３（ａ）～（ｄ）に示した各画面モードをトグルによって遷移させることにより、所望する画面モードを選択して、アスペクト比４：３のＮＴＳＣ方式の映像を表示することができる（例えば特許文献１参照）。
【特許文献１】特開平７－１３５６１４号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
しかしながら、従来の映像表示装置においては、そのアスペクト比が１６：９であり、それ以上に横長である例えばアスペクト比１０：３というような映像表示装置においては、これまでの画面モードでは不十分という問題があった。
【０００７】
本発明は、従来の問題を解決するためになされたもので、画面モード数の増加を極力少なくし、アスペクト比１０：３というような映像表示装置において、大臨場感の得られる画面モードや真円表示可能なモードを提供することを目的とする

【課題を解決するための手段】
【０００８】
本発明の映像表示装置は、アスペクト比が１６：９より水平方向に長い表示部を備えた映像表示装置であって、入力される映像を水平方向にＡ倍（Ａは１以上）で、かつ、垂直方向にＢ倍（Ｂは１以上）に伸張する映像変換回路と、前記映像変換回路によって伸張した映像を表示する表示部とを備え、前記映像変換回路の水平方向の伸張率Ａは垂直方向の伸張率Ｂよりも大きくするものである。
【発明の効果】
【０００９】
本発明は、アスペクト比が１６：９より水平方向に長い映像表示装置であって、入力される映像信号を水平方向と垂直方向とに伸張を行う映像変換回路と、映像変換回路によって伸張した映像を表示する表示部を備え、映像変換回路は、入力される映像を水平方向にＡ倍（Ａは１以上）、垂直方向にＢ倍（Ｂは１以上）に伸張し、水平方向の伸張率Ａは垂直方向の伸張率Ｂよりも大きくすることにより、水平方向への伸張による違和感を少なくし、横長のアスペクト比を効果的に使用した迫力ある映像を表示することができるものである。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１０】
以下、本発明の実施の形態の映像表示装置について、図面を用いて説明する。
【００１１】
（第１の実施形態）
本発明の第１の実施形態の映像表示装置の表示部のアスペクト比を図１に示す。
【００１２】
図１において、（ａ）はアスペクト比４：３の映像表示装置の表示部であり、（ｂ）はアスペクト比１６：９の映像表示装置の表示部であり、（ｃ）はさらに水平方向に長いアスペクト比１０：３の映像表示装置の表示部である。
【００１３】
図２は、映像表示装置を使用したシステム構成図であり、図２において、２０１は映像信号源であり、ＤＶＤプレーヤやＴＶチューナがそれにあたる。２０３は、アスペクト比１０：３の映像表示装置であり、水平方向垂直方向の画素数はそれぞれ、１６００、４８０であり、ＷＶＧＡ（８００×４８０）を２枚分のサイズを有する。２０２は映像の伝送路であり、ＮＴＳＣやＤ端子によって映像信号が映像信号源２０１から映像表示装置２０３に送られ、映像が表示される構成である。
【００１４】
図３は、映像表示装置２０３の構成図であり、３０１は映像信号の受信を行う受信回路、３０２は水平方向、垂直方向に映像の伸張を行う映像変換回路、３０３は表示コントローラであり、表示部３０４に対してタイミング信号と映像信号を所望のタイミングにて生成し、送出する。３０５はマイコンであり、映像変換回路３０２に対して水平方向、垂直方向の映像の伸張の設定や、表示コントローラ３０５に対して出力するタイミング信号の変更を行う。３０６はリモコンであり、ユーザ操作をマイコン３０５が受け付け、映像表示装置２０３の動作を変更して使用するというものである。
【００１５】
以上のように構成された映像表示装置について、その動作を説明する。
【００１６】
図４は、映像の伝送路２０２によって、映像信号源２０１から映像表示装置２０３に送られてくる映像信号の伝送形態を示す図であり、（ａ）～（ｆ）の伝送形態が想定される。映像信号は４：３形式のＮＴＳＣ信号で送られてくるものとし、受信回路３０１で受信された後は、アスペクト比４：３の映像信号は、６４０画素×４８０画素のＶＧＡサイズの信号に変換されるものとする。ここでは４：３形式の映像信号を６４０×４８０のサイズであるものとして説明を進める。

【００１７】
（ａ）～（ｃ）は、映像の水平方向の拡大縮小率が１倍であり、図４に示した映像中央の円が、真円のままで伝送されるものである。（ａ）はアスペクト比４：３の映像であり、（ｂ）はアスペクト比１６：９の映像であり、（ｃ）はアスペクト比１２：５のシネマスコープ映像である。（ｅ）～（ｆ）は、映像の水平方向の拡大縮小率が０．７５倍のものであり、図４に示した映像中央の円が、縦長（スクイーズ）のままで伝送されるものである。（ｄ）はアスペクト比１６：９の映像であり、（ｅ）はアスペクト比１２：５のシネマスコープ映像である。（ｆ）は縦長の中にアスペクト比４：３の映像が多重されている。（ａ）～（ｆ）は、ＤＶＤプレーヤや地上波デジタル放送のチューナの映像出力形態であり、（ａ）～（ｃ）は、アスペクト比４：３の映像表示装置で視聴するためフォーマットであり、アスペクト比４：３の映像表示装置に表示することにより、正確な真円率での表示が可能となる。アスペクト比１６：９の映像表示装置においては、ノーマルのモードにて、両サイドに映像を表示させずに、中央のみに４：３の映像を表示させることにより、正確な真円率での表示が可能である。もしくは、ワイドやフルのモードにてアスペクト比１６：９の表示部に表示することも可能である。（ｄ）～（ｆ）は、アスペクト比１６：９の映像表示装置で視聴するためフォーマットであり、アスペクト比１６：９の映像表示装置にフルのモードにて表示を行うことにより、正確な真円率での表示が可能となる。

【００１８】
図４（ａ）～（ｆ）に示された４：３形式の伝送形態にて映像信号が映像の伝送路２０２を介して、映像表示装置２０３に入力される。映像表示装置２０３においては、受信回路３０１にて受信された、映像信号は、６４０画素×４８０画素のＶＧＡサイズの信号に変換される。６４０画素×４８０画素は４：３の比率であり、受信回路３０１においては、水平方向、垂直方向ともに映像の伸張は行われない。

【００１９】
図５は、ノーマルモード時の表示部への表示形態を示した図である。ノーマルモード時には、映像変換回路３０２は、水平方向、垂直方向ともに映像の伸張を行わない。これにより、表示コントローラ３０３を介して、図５に示したように、入力された（ａ）～（ｆ）のそれぞれの６４０画素×４８０画素の映像は、１６００画素×４８０画素の表示部３０４の中央部に表示されることになる。表示部３０４の両サイドのそれぞれ４８０画素×４８０画素の部分には映像が表示されないことになる。また（ｆ）に示した４：３スクイーズ映像は、その伝送形態において、両サイドに映像を含まない領域が存在するので、さらに表示部３０４の両サイドに映像が表示されない部分が存在することになる。また、（ｂ）のアスペクト比１６：９の映像や、（ｃ）のアスペクト比１２：５のシネマスコープ映像や、（ｅ）のアスペクト比１２：５のスクイーズされたシネマスコープ映像は、その伝送形態において、上下に映像を含まない領域が存在するので、表示部３０４の上下部分に映像が表示されない部分が存在することになる。ノーマルモード時には、（ａ）～（ｃ）に示した水平方向の拡大縮小率が１倍の映像が、正確な真円率で表示されることになる。

【００２０】
図６は、ハーフフルモード時の表示部への表示形態を示した図である。ハーフフルモード時には、映像変換回路３０２は、水平方向のみ４／３倍の伸張を行う。これにより、表示コントローラ３０３を介して、図６に示したように、入力された（ａ）～（ｆ）のそれぞれの６４０画素×４８０画素の映像は、８５３画素×４８０画素の映像に変換され、１６００画素×４８０画素の表示部３０４の中央部に表示されることになる。表示部３０４の両サイドのそれぞれ部分には映像が表示されないことになる。また（ｆ）に示した４：３スクイーズ映像は、その伝送形態において、両サイドに映像を含まない領域が存在するので、さらに表示部３０４の両サイドに映像が表示されない部分が存在することになる。また、（ｂ）のアスペクト比１６：９の映像や、（ｃ）のアスペクト比１２：５のシネマスコープ映像や、（ｅ）のアスペクト比１２：５のスクイーズされたシネマスコープ映像

は、その伝送形態において、上下に映像を含まない領域が存在するので、表示部３０４の上下部分に映像が表示されない部分が存在することになる。ハーフフルモード時には、（ｄ）～（ｆ）に示したスクイーズ映像が、正確な真円率で表示されることになる。（ａ）～（ｃ）に示した水平方向の拡大縮小率が１倍の映像が、４／３倍の水平方向の拡大縮小率で表示されることになる。この４／３倍の拡大縮小率は、アスペクト比４：３の映像をアスペクト比１６：９の映像表示装置にフル表示した時と同じ拡大率であり、視聴時に引き伸ばしによる違和感の無いものである。

【００２１】

図７は、ズーム１モード時の表示部への表示形態を示した図である。ズーム１モード時には、映像変換回路３０２は、水平方向に１２８／６３倍の伸張を、垂直方向には８／７倍の伸張を行う。これにより、表示コントローラ３０３を介して、図７に示したように、入力された（ａ）～（ｆ）のそれぞれの６４０画素×４８０画素の映像は、１３００画素×５４９画素の映像に変換され、垂直方向の５４９ライン分の中心部分の４８０ライン分のみの映像が選択され、１３００画素×４８０画素の映像として、１６００画素×４８０画素の表示部３０４の中央部に表示されることになる。表示部３０４の両サイドのそれぞれ部分には映像が表示されないことになる。また（ｆ）に示した４：３スクイーズ映像は、その伝送形態において、両サイドに映像を含まない領域が存在するので、さらに表示部３０４の両サイドに映像が表示されない部分が存在することになる。また、（ｂ）のアスペクト比１６：９の映像や、（ｃ）のアスペクト比１２：５のシネマスコープ映像や、（ｅ）のアスペクト比１２：５のスクイーズされたシネマスコープ映像は、その伝送形態において、上下に映像を含まない領域が存在するが、垂直方向の伸張を行うことにより、表示部３０４の上下部分に映像が表示されない部分の幅が減少することになる。ズーム１モード時には、（ａ）～（ｃ）に示した水平方向の拡大縮小率が１倍の映像が１１２／６３倍（１．７８倍）となり、視聴時に引き伸ばしによる違和感の少ない表示が可能であり、アスペクト比１０：３の表示部３０４を効果的に使用した迫力のある映像を表示するものである。また、（ｄ）～（ｆ）に示したスクイーズ映像は、４／３倍の水平方向の拡大縮小率で表示されることになる。この４／３倍の拡大縮小率は、アスペクト比４：３の映像をアスペクト比１６：９の映像表示装置にフル表示した時と同じ拡大率であり、視聴時に引き伸ばしによる違和感の無いものである。

【００２２】

図８は、ズーム２モード時の表示部への表示形態を示した図である。ズーム２モード時には、映像変換回路３０２は、水平方向に５／２倍の伸張を、垂直方向には８／７倍の伸張を行う。これにより、表示コントローラ３０３を介して、図８に示したように、入力された（ａ）～（ｆ）のそれぞれの６４０画素×４８０画素の映像は、１６００画素×５４９画素の映像に変換され、垂直方向の５４９ライン分の中心部分の４８０ライン分のみの映像が選択され、１６００画素×４８０画素の映像として、１６００画素×４８０画素の表示部３０４に表示されることになる。（ｆ）に示した４：３スクイーズ映像は、その伝送形態において、両サイドに映像を含まない領域が存在するので、表示部３０４の両サイドに映像が表示されない部分が存在することになる。また、（ｂ）のアスペクト比１６：９の映像や、（ｃ）のアスペクト比１２：５のシネマスコープ映像や、（ｅ）のアスペクト比１２：５のスクイーズされたシネマスコープ映像は、その伝送形態において、上下に映像を含まない領域が存在するが、垂直方向の伸張を行うことにより、表示部３０４の上下部分に映像が表示されない部分の幅が減少することになる。ズーム２モード時には、（ａ）～（ｃ）に示した水平方向の拡大縮小率が１倍の映像が３５／１６倍（２．１９倍）となる。視聴時に引き伸ばしによる違和感が少ない状態で、アスペクト比１０：３の表示部３０４を効果的に使用した迫力のある映像を表示するものである。また、（ｄ）～（ｆ）に示したスクイーズ映像は、１０５／６４倍（１．６４倍）の水平方向の拡大縮小率で表示されることになる。視聴時に引き伸ばしによる違和感の少ない表示が可能であり、アスペクト比１０：３の表示部３０４を効果的に使用した迫力のある映像を表示するものである。

【００２３】
このような本発明の第１の実施形態のアスペクト比が１６：９より水平方向に長い映像表示装置によれば、入力される映像信号を水平方向と垂直方向とに伸張を行う映像変換回路と、映像変換回路によって伸張した映像を表示する表示部を備え、映像変換回路は、入力される映像を水平方向にＡ倍（Ａは１以上）、垂直方向にＢ倍（Ｂは１以上）に伸張するモードを備えたことにより、様々な伝送形態で送られてくる映像信号を、正確な真円率で表示させることが可能であり、また視聴時に引き伸ばしによる違和感の無い４／３倍の拡大縮小率で表示することも可能であり、またアスペクト比１０：３の表示部３０４を効果的に使用した１１２／６３倍（１．７８倍）や１０５／６４倍（１．６４倍）の拡大縮小率で、迫力のある映像を表示することが可能となる。
【００２４】
また、図９は映像表示装置の画面モードの遷移を示す図である。リモコン３０６からの入力を受け付け、図５～図８に示した各モードを順次遷移することによって、映像に応じて所望する画面モードを容易に選択し、映像を視聴することが可能となる。また、４個のモードのみで、各映像を正確な真円率で表示させることが可能であり、また視聴時に引き伸ばしによる違和感の無い４／３倍の拡大縮小率で表示することも可能であり、アスペクト比１０：３の表示部３０４を効果的に使用した拡大縮小率で、迫力のある映像を表示することが可能となる。
【００２５】
次に、本発明の第２の実施形態の映像表示装置に関して図１０を用いて説明する。
【００２６】
図１０は、フルモード時の表示部への表示形態を示した図である。フルモード時には、映像変換回路３０２は、水平方向のみ５／２倍の伸張を行う。これにより、表示コントローラ３０３を介して、図１０に示したように、入力された（ａ）～（ｆ）のそれぞれの６４０画素×４８０画素の映像は、１６００画素×４８０画素の映像に変換され、１６００画素×４８０画素の表示部３０４に表示されることになる。（ｆ）に示した４：３スクイーズ映像は、その伝送形態において、両サイドに映像を含まない領域が存在するので、表示部３０４の両サイドに映像が表示されない部分が存在することになる。また、（ｂ）のアスペクト比１６：９の映像や、（ｃ）のアスペクト比１２：５のシネマスコープ映像や、（ｅ）のアスペクト比１２：５のスクイーズされたシネマスコープ映像は、その伝送形態において、上下に映像を含まない領域が存在するので、表示部３０４の上下部分に映像が表示されない部分が存在することになる。フルモード時には、（ａ）～（ｃ）に示した水平方向の拡大縮小率が１倍の映像が、５／２倍の水平方向の拡大縮小率で表示されることになる。また、（ｄ）～（ｆ）に示したスクイーズ映像が、１５／８倍（１．８８倍）の水平方向の拡大縮小率で表示されることになる。図７の示したズーム１モードや、図８に示したズーム２モードのように垂直方向の伸張は行わないため、図４で示した全ての形態の入力映像信号をカットして表示するということがなく、アスペクト比１０：３の表示部３０４を効果的に使用した迫力のある映像を表示することが可能となる。またＤＶＤプレーヤやＴＶチューナといった映像信号源２０１のメニュー画面を操作する際には、メニュー画面がアスペクト比１０：３の表示部３０４全体に表示されることになり、非常に操作し易い環境の提供が可能である。
【００２７】
以上のように本発明の第２の実施形態の映像表示装置によれば、入力される映像信号を水平方向と垂直方向とに伸張を行う映像変換回路と、映像変換回路によって伸張した映像を表示する表示部を備え、映像変換回路は、入力される映像を水平方向にのみＣ倍（Ｃは１以上）に伸張するモードを更に備えたことにより、様々な伝送形態で送られてくる映像信号をカットすることなく、アスペクト比１０：３の表示部３０４を効果的に使用した迫力のある映像を表示することが可能となる。またＤＶＤプレーヤやＴＶチューナといった映像信号源のメニュー画面を操作する際には、メニュー画面がアスペクト比１０：３の表示部３０４全体に表示されることになり、非常に操作し易い環境の提供が可能である。

【００２８】
また、図１１は映像表示装置の画面モードの遷移を示す図である。リモコン３０６からの入力を受け付け、図５～図８、図１０に示した各モードを順次遷移することによって、映像に応じて所望する画面モードを容易に選択し、映像を視聴することが可能となる。また、５個のモードのみで、各映像を正確な真円率で表示させることが可能であり、また視聴時に引き伸ばしによる違和感の無い４／３倍の拡大縮小率で表示することも可能であり、アスペクト比１０：３の表示部３０４を効果的に使用した拡大縮小率で、迫力のある映像を表示することも可能であり、またメニュー画面において非常に操作し易い環境の提供が可能である。
【００２９】
図１２は、本発明の第１の実施形態または第２の実施形態における映像表示装置の車両への取り付けを示す図であり、図１２において、１２０１は車両、１２０２は２列目の乗員用のシート、１２０４は３列目の乗員用のシートであり、１２０３は２列目シートの乗員、２０３はアスペクト比１０：３の映像表示装置である。映像表示装置２０３は車両１２０１の１列目の乗員用シートと２列目の乗員用シートの間の天井部に吊り下げられた状態にて固定されているものとする。また映像表示装置２０３は車両１２０１の左右中央部分に装着されているものである。映像表示装置２０３に表示される映像は、水平方向に拡大された状態にて表示されることになるが、車両１２０１の中においては、２列目シートの乗員１２０３は、２列目の乗員用のシート１２０２の左右いずれかに着席し、斜めから映像表示装置２０３に表示される映像を視聴することになるので、視聴時の引き伸ばしによる違和感をさらに減少させることになる。また、映像表示装置２０３を横長の形状としたのは、車両１２０１の運転手のバックミラーによる後方視界を妨げないようにしたためである。
【産業上の利用可能性】
【００３０】
本発明にかかるアスペクト比が１６：９より水平方向に長い映像表示装置は、映像を正確な真円率にて表示し、また水平方向への伸張による違和感を少なくし、横長のアスペクト比を効果的に使用した迫力ある映像を表示することができるという効果を有し、アスペクト比４：３やアスペクト比１６：９の映像を、様々の画面モードにて表示する場合に有用である。
【図面の簡単な説明】
【００３１】
【図１】本発明の第１の実施の形態における映像表示装置の表示部のアスペクト比を示す図
【図２】本発明の第１の実施の形態における映像表示装置を使用したシステム構成図
【図３】本発明の第１の実施の形態における映像表示装置２０３の構成図
【図４】本発明の第１の実施の形態における映像信号の伝送形態を示す図
【図５】本発明の第１の実施の形態におけるノーマルモード時の表示形態を示す図
【図６】本発明の第１の実施の形態におけるハーフフルモード時の表示形態を示す図
【図７】本発明の第１の実施の形態におけるズーム１モード時の表示形態を示す図
【図８】本発明の第１の実施の形態におけるズーム２モード時の表示形態を示す図
【図９】本発明の第１の実施の形態における映像表示装置の画面モードの遷移を示す図
【図１０】本発明の第２の実施の形態におけるフルモード時の表示形態を示す図
【図１１】本発明の第２実施の形態における映像表示装置の画面モードの遷移を示す図
【図１２】本発明の第１の実施の形態または第２の実施の形態における映像表示装置の車両への取り付けを示す図
【図１３】従来の映像表示装置の画面モードを示す図
【図１４】従来の映像表示装置の画面モードの遷移を示す図
【符号の説明】
【００３２】

２０１　映像信号源
２０２　映像の伝送路
２０３　映像表示装置
３０１　受信回路
３０２　映像変換回路
３０３　表示コントローラ
３０４　表示部
３０５　マイコン
３０６　リモコン